

生きる力を育む授業づくり ～つくる体験を通して学ぶ～

橋本直紀

1. はじめに

私たちは「自然」から生きていくための糧を得ている。今、その自然に関しての様々な問題点が指摘され、私たちを取り巻く自然環境は決して満足するものとはいえなくなっている。しかし、自然は私たち自らの働きかけに応え、その結果を示してくれる可能性がある。私たち一人ひとりが何らかの形で自然と向き合い、できることを通して自然本来の姿を少しでも呼び戻し、その大きな恩恵をこれからも受け続けることができればと思う。

2. 研究テーマ設定の理由

このテーマを設定した理由の一つに、私自身が趣味として園芸や調理にかかわりだしたことがある。そのこともあり、ここ数年高等部の作業学習の「栽培班」を担当している。栽培班の主たる活動内容は季節に合わせた野菜類を育て、学校行事のバザーに出品し、販売することである。バザー以外の時期には保護者や教職員に販売したり、収穫した作物を学級や学部の活動へ提供したりすることもある。

昨今、生徒の実態はますます多様化し、私たちには一人ひとりの生徒のもてる力が存分に発揮できる教育環境を整える努力が常に求められている。生徒たちが授業を「わかる」ために、見通しをもって臨めるようにすることも大切にしていることの一つである。しかしながら、ほとんどの取り組みでは単発的であったり、短期間であったりすることが多いといえる。

栽培作業や調理学習の中には多くの分野や過程があり、様々な作業項目が含まれる。栽培する作物や調理する食べ物は違っても、同じような活動内容が含まれている。それらの作業の中で一人ひとりの生徒の特性が生きる場面が生まれ、繰り返し行われる活動の中で見通しをもった取り組みも可能になるのではないかと思われる。

従来の栽培作業では野菜類が中心であり、栽培し販売・提供することが主であった。しかし、ここでは栽培する作物にもっと食の基本的な品目を取り上げたいと考えた。私たちの最も身近な食べ物にご飯、パン、うどん、とうふなどがある。その材料である米や麦、大豆はどれもが日常の食生活の上で欠かせない食材といえる。また、普段何気なく口にしている食べ物を自分自身で作る体験を通して、栽培後を自覚するきっかけになればと考えた。単に作物を栽培するだけでなく、自分たちが作っている作物が身近な食べ物の原料であると実感する活動としていきたい。さらに栽培作業と調理・加工学習を関連付けることで生徒の興味や関心が高まり、授業に対して意欲的な気持ちが生じることも期待したい。

3. 今年度の活動から

今年度は対象となる生徒が一部だけであったり、学習活動の流れとして変則的であったりしたが、「大豆」を題材として「とうふ作り」の活動を行うことができた。前半の栽培

を中心とした活動は「作業学習」の時間に栽培班が行った。後半の加工学習は高等部2年の「生活」の時間に、担任の協力を得て合同の形で行った。作業学習の栽培班は男子6名、女子1名の計7名である。高等部2年は男子6名、女子3名の計9名である。その中で前半、後半の活動ともにかかわりのもてた生徒は2名だけであった。

栽培作業の中で生徒の成長や本来の姿をかいま見ることができた。A男は作業には積極的なのだが以前から手袋が一人でははめられず、自分でも苦手意識をもち、手伝おうとしても嫌がり、いつしか周りも諦めていた。それが今では軍手をする事が次への活動につながることを意識し、多少の時間はかかるが自分一人ではめれるようになった。B子は土を耕すなど力仕事は不得手で、集団からも離れがちで教師の援助を受けての作業がほとんどであったが、サツマイモの収穫作業では目を輝かせていつまでも手を休めようとしなかった。

(「とうふ作り」の活動についてはP.91の項を参照されたい)

4. 考察

今年度は、テーマに沿って私が頭の中で描いた一連の学習活動の一部を実践できたに過ぎなかった。目指したい活動内容は一言でいえば、作業学習の栽培と生活学習での調理的内容を結び付けた学習活動であるといえる。従来から言われる体験や繰り返しの長期にわたる地道な積み重ねが加わることで「わかる」につながる道が開かれるのではないかと思われる。一つひとつの過程を大切にしてい貫性と繰り返しを含む細かなステップを常に意識して進めていきたい。

また、非常に長いスパンの学習形態は、生徒にとって強要されることの少ない学習活動と成りえるのではないかと思われる。ゆったりとした時間の流れや体験の中で生徒それぞれが得意な分野でもてる力を発揮する。教師にとっても生徒と体験を共有し、じっくりと生徒を見ることで、生徒の言動を受け止める気持ちが培われる。子どもが育つとともに教師も育つのである。正に共育である。

まだまだテーマに沿った学習活動を進めるには施設面、カリキュラム面、教材面、人材面などにおいて多くの問題点や課題を抱えている。様々な学習形態がある中で、総合的な内容を含んだ学習の一つの在り方として、今後より深めていくことができれば良いのではないかと考えている。

5. おわりに

土や草の匂いを嗅ぎながら、多くの労力と時間を掛けて自然の恵みに直に触れ、味わうという一連の活動の中で、生きることの原点を感じ取っていくのではないだろうか。この「つくる」という学習活動をきっかけとして、一つの分野に限らず広い意味で「自然」に向き合い、働きかけていくことが生きる力につながる第一歩となれば幸いである。